

里風通信

農山村と企業・大学の連携が広がっています
多様な主体と「協働」するむらづくり



企業・大学が、 ワザを活かして伝える！ 農山村の新たな魅力

ドローンだからできるこれからの広報戦略 P01
視点を変えて邑の魅力を見直し

NPO 法人 中山間地活性化協議会 × (株) アイエグゼック
× 県内10地域の邑

地域、企業、学生の想いがひとつになって P03
里山と子どもをつなぐ絵本が誕生！

NPO 法人 せんがまち棚田倶楽部 × (株) ウェブサクセス
× 静岡大学棚田研究会

特集 第2弾 農山村 × 企業・大学で創るむらづくり P05
むらづくりワンストップ窓口による P07



企業・大学のみなさん 農山村との連携相談はこちら むらづくりワンストップ窓口

「これから、農山村と一緒に何か取り組みたい」
と思ったら、お近くの「むらづくり ワンストップ窓口」にご連絡を！
例えば、農山村地域の特産品の活用、農山村での福利厚生、農山村との体験学習、
農山村への社会貢献、地域課題のビジネス化、など
ワンストップ窓口がアドバイスやマッチングをお助けします。

農山村でのイベント・ビジネス研修会



地域づくりアドバイザーによる
研修会・交流会

農山村や企業による相談



出張相談会

情報発信

●旬な農山村の情報を無料で「むらサポ」WEB・フェイスブックで広報します。

【情報内容の例】

- ・農山村でイベント開催
- ・ボランティア募集
- ・農産物販売の開始

連携支援

●外部人材の連携支援
各種ノウハウや知恵を持った人たちをご紹介します。

【支援内容の例】

- ・地域の特産品を用いた商品開発
- ・学生受け入れ可能な農山村とのマッチング
- ・地域を盛り上げる仕掛け
- ・農家民宿を始めたい
- ・地域おこし協力隊との連携

むらづくりワンストップ窓口

地域づくりに役立つ研修会や、相談会、地域交流会も年に数回開催中！

【参加無料】

各種相談

●農山村のよろず相談室
ご相談いただければ、無料で一緒に考えます。

【相談内容の例】

- ・地域づくり研修企画
- ・農山村移住
- ・農業参入
- ・地域資源を活かしたCSVやCSR

農山村の人たちも参加しています！
新たな出会いがあるかも！



県の地域づくりアドバイザーや環境学習コーディネーターが在籍しています。



- 伊豆地域** 特定非営利活動法人 NPO サプライズ (伊豆市修善寺 75 ドットツリーオフィス)
電話 0558-99-9120 (平日のみ9時から16時)
- 東部地域** 特定非営利活動法人ホールアース研究所 (富士宮市下柚野 165)
電話 0544-66-0790 (9時から17時)
- 中部地域** 一般社団法人 SACLABO (藤枝市若王子 705-2)
電話 070-5332-3955 (9時から18時)
- 西部地域** 浜松市市民協働センター (浜松市市民協働サポートグループ)
(浜松市中区中央1丁目13-3)
電話 053-457-2616 (9時~21時30分 (12/29~1/3を除く))



●「ふじのくに美しく品格のある邑」に関する旬な情報は こちら

美しく品格のある邑 検索



ふじのくに
美しく品格のある邑
Charming and Graceful Villages in "FUJINOKUNI"



ウェブサイト

公式ウェブサイト
<http://www.fujinokuni-mura.net>
公式 Facebook
<https://www.facebook.com/muradoki/>

●静岡県内の農山村の旬な情報や企業との連携事例などの情報は こちら

しずおか_むらサポ 検索



しずおか
農山村サポーター

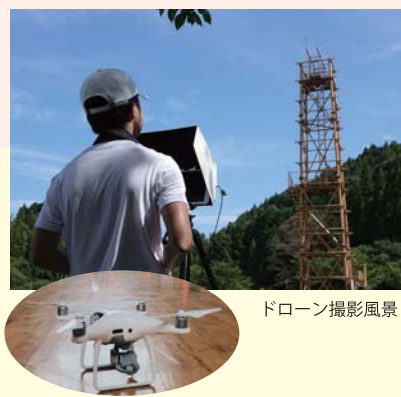


ウェブサイト

公式ウェブサイト
<http://www.shizuoka-murasapo.net/>
公式 Facebook
<http://www.facebook.com/shizuokamurasapo/>



川島祐介さん 北原拓馬さん 高橋秀樹さん



ドローン撮影風景

課題が多い地域には、その分、ビジネスチャンスも多い



テレビ静岡「てっぺん!」の「日美旬感」やNHK 全国放送でドローン映像が活用されました

NPO 法人 中山間地活性化協議会
理事長 高橋秀樹さん

ボランティアではなく、継続的な利益が出るしくみを創りたい

中山間地は課題が多い分、企業が知恵を出せる分野が多いと感じています。地域にも企業にも継続的な利益が出るしくみを創りたい時に最先端技術を使った企業による宣伝広報が武器になると思いました。今後は地域の特産品開発や観光 PR にも我々や関連企業のノウハウを活かしていきたいです。

ドローン撮影・映像編集(株)アイエグゼック
代表取締役 北原拓馬さん

人と人、地域と企業が繋がっていくこの想いを、教育の場に伝えていきたい

10 地域の邑の PR 動画制作は、当社の制作技術の向上やノウハウの蓄積にも大いに役立ちました。むらサポを活用することによって、地元の調整に係る負担が少なく、地域の方も快くドローン撮影に参加してくれました。今回の取組みを通じ、最先端技術を通して人と人、地域と企業が繋がっていく手ごたえを感じられました。

ドローンパイロット(株)アイエグゼック
川島祐介さん

地域の個性ある映像制作は地元の人たちとの、よい関係から...

撮影前に地域を何度も訪ね、地元の人たちと風通しのよい関係をつくることを心がけました。「川はあの辺から撮るといいよ」とか地元の人しか知らない情報もたくさん教えていただき、各地域の個性を PR できる良い映像を撮ることができました。

企業 × 農山村の関係

●NPO・企業側のメリット

- 中山間地域活性化への展開
- 地域に活気、やりがいを醸成
- 新たな視点による魅力発信
- 映像を通じた団体の認知向上

- ドローンの認知向上、普及
- ノウハウの蓄積
- 映像を通じた企業の認知向上
- ビジネスチャンスのアップ
- 社会貢献(CSR)
- 行政の信用力を背景にしたブランディングに成功

●農山村側のメリット



- ドローン映像で邑の新たな魅力を発信
- 広報ツールの充実
- 最新技術による広報で若年層も興味感心

農山村には、美しい景観や食、地域に伝わる伝統文化があります。ふじのくに美しく品格のある邑づくり連合(県と35市町)では、こうした地域資源(宝)を保全・活用し次世代に継承しようとする地域を「ふじのくに美しく品格のある邑(むら)」として登録しています。



地域の魅力の情報発信・理解促進

- IT 技術を活用した広報
- 地域情報の共有
- 都市と地域の交流促進

しすおか 農山村サポーター



ドローンだからできる これからの広報戦略 視点を変えて邑の魅力を再発見

～ NPO 法人中山間地活性化協議会 × (株)アイエグゼック × 県内 10 地域の邑～

県内の邑の魅力をドローンで伝える

むらサポ会員企業である NPO 法人中山間地活性化協議会(以下、「協議会」と)と(株)アイエグゼックは平成二十九年に県内十地域の邑をドローンで撮影した PR 動画を制作しました。空から俯瞰する緑豊かな森や里山、美しい清流。そして自然と共に暮らす人々のいきいきとした表情であふれた動画は、地域の魅力を新たな視点から伝える強力な広報ツールとして注目されています。

中山間地の課題解決に IT 活用を提案

協議会の高橋秀樹さんの本業は IT エンジニア。エンジニアとして活躍する傍ら、協議会の理事長として地域振興に関わってきました。活動の中で高橋さんは、中山間地には豊富な地域資源があるにも関わらず、魅力を伝えきれない現状に気が付いたといいます。そんな折「邑」の取組をホームページで知った高橋さんは、地域の想いに共感し、早速ビジネスパートナーで、ドローン撮影や映像制作

を手掛ける(株)アイエグゼックの北原拓馬さんと連携し、ドローン技術を活かした地域の魅力を伝える PR 動画の制作を企画しました。しかし、ドローンを飛ばすには、地元連絡や撮影場所の調整が必要不可欠。そこで、静岡県に相談したところ、企業が協力できるタイミングで協働できる「むらサポ」を知りました。そして、むらサポに会員登録し、十地域の邑を PR する動画の制作をスタートさせました。

皆さんに知ってほしいから動画の使用は誰でも気軽に

「動画の使用許可は不要、加工も自由です。」そう提案したのはドローン撮影をした(株)アイエグゼックの北原さん。『多くの皆さんに農山村の想いを伝えたい、様々な場面で動画を活用してほしい』という考えから提案されたものでした。代わりに動画内に撮影した「(株)アイエグゼック」と企画した「NPO 法人中山間地活性化協議会」の名を入れることで、制作者側のメリットに配慮しました。完成した動画をネットへ早速



動画は Youtube で公開中!

アップすると予想以上の反響があったそうです。テレビ番組からの問合せや番組内での活用、撮影地域の問合せはもちろん、(株)アイエグゼックの知名度が上がり、起業三年目にして、大企業や行政関係からも注文が増え、売り上げが倍増(前年比)しました。こうして、地域・企業ともにプラス効果となる理想的な協働が実現しました。

地域、企業、学生の思いがひとつになって、 里山と子どもをつなぐ 絵本が誕生！

せんがまち棚田倶楽部×(株)ウェブサクセス×静岡大学棚田研究会



二十年以上前から 棚田保存活動が本格化

菊川市にある千榎(せんがまち)の棚田は、二〇一三年に世界農業遺産として認定された「静岡の茶草場農法」の茶草場(ちやぐさば)が隣接する世界でも貴重な場所です。静岡県棚田等十選にも認定されています。

千榎では、平成六年頃から地元の有志が中心となって、先祖代々の千枚田を保存しようと活動を始め、平成二十二年に NPO 法人せんがまち棚田倶楽部(以下、「棚田倶楽部」)を設立しました。この頃から、企業や学校、棚田オーナーとの交流が始まり、棚田保全活動には毎年多くの人たちが参加しています。平成三十年十月二十日、千榎の棚田では稲刈りが行われ、

子どもから大人まで多くの人で賑わいました。

棚田の魅力に惹かれた 企業・大学が協働

知人の紹介で千榎を知ったホームページ制作会社の(株)ウェブサクセス代表取締役の加藤和恵さんは、のどかな田園風景や地域の人々の棚田への思いに共感し、ふるさとに帰るような気分で度々千榎を訪れるようになったといいます。同期、静岡大学の学生たちも千榎の棚田保全をサポートするサークル「静岡大学棚田研究会」(通称「しず大棚けん」)を立ち上げ、彼らも頻りに棚田を訪れるようになりました。

そんな折、棚田倶楽部から千榎の棚田の魅力や活動を広く伝えるホームページを作りたいというお話が出て、「それなら、私たちが千榎の棚田の魅力を伝えるお手伝いをします」と、加藤さんが手を挙げました。平成二十一年に開設した「棚田いこうよ.net」という親しみやすいタイトルのホームページでは、棚田保存活動の様子がきめ細かく紹介され、閲覧者数も年々増加。今では千榎の情報発

■企業・大学との協働事例



「はるのたなだて」が贈呈されました

信の中心的なツールとなつていいます。
未来につなげたい大切な世界があることを子どもたちに知って欲しい
こうして千榎との絆が年々深まる中、「いきものと子どもたちをつなげる絵本があるといいね」という話を持ち上がり、棚田倶楽部×ウェブサクセス×しず大棚けん×絵本プロジェクトチームを立ち上げ、ストーリーやイラスト作成が進みました。そして、オーナーの方や有志ボランティアの方々の協力、発行に菊川市の支援も加わり、ついに平成三十年、みんなの思いが詰まった絵本『はるのたなだて』が完成しました。全三十二ページの絵本は、各小学校の授業に使用される充実した内容で、増刷希望も出ています。
企業、大学生、棚田倶楽部。各々の立場は違えど、千榎の棚田を好きになり、守りたいという気持ちはみんな同じ。だからこそ、気持ちひとつになって心温まる協働が生まれているのではないのでしょうか。

NPO 法人せんがまち棚田倶楽部 事務局長 堀 延弘さん



千榎には外部の人たちを惹きつける魅力がある

ウェブサクセスさんや大学生との協働がうまく進んでいる理由は、「みんなが千榎のファン」でいてくれるからです。外部の人たちを惹きつける魅力のある地域ですから、地元の我々も一生懸命にこの魅力を守っていかなくてはと思います。

NPO 法人せんがまち棚田倶楽部 理事長 山本 哲さん



次の世代へと保存活動を継承していきたい

この地域では約 400 年前から棚田で稲作が行われていました。一時は 9 割以上が遊休農地でしたが、地元以外の企業や大学生の協力で保存活動の輪が大きく広がり、最近では海外から訪れる人もいます。一代で終わらせずに、次の世代へとこの活動を継承していきたいですね。

さまざま立場で 大好きな棚田を 守っています



静岡大学 棚田研究会 OB 天野 浩史さん

棚田でいろんな人たちと一緒に汗をかいて、自分の視野が広がった

大学時代の専攻は農業とは無関係でしたが、ここで行政、企業などさまざまな立場の人たちと出会うことが面白くなり、現在は NPO 法人を設立してまちづくりや地域振興を本業にしています。OB たちも田植えや稲刈りの時は全国からここに集合するほど「しず大棚けん」の絆は強いんです!



静岡大学 棚田研究会 栗田 真菜さん

メンバー 60 名の大所帯 大学祭やマルシェにも出店して棚田を PR しています

創設時は数名だったメンバーが現在は 60 名。大学内でも有数の大所帯サークルになりました。棚田に来ると、なぜかみんないい表情になるんです。大学祭やマルシェでもこの米を使ったお菓子などを販売し、千榎を PR しています。



(株)ウェブサクセス 代表取締役 加藤 和恵さん

得意分野を活かして千榎の魅力を伝える楽しさ

最初は個人的に千榎と関わっていたのが、いつのまにか会社ぐるみのおつきあいになり、発展しました。この地域には、いいところがたくさんある。それをホームページや絵本など自分たちの得意分野のツールで伝えていく作業はとても楽しく、やりがいがあります。

協働によって解決する課題や協働パートナー（地域）が見つかったら 一歩深化した協働に取り組んでみましょう！

～農山村×企業・大学で創るむらづくり～ 企業・大学×農山村の協働に 取り組むきっかけと活動ステップ

応援型の協働

特定地域が抱える課題について企業・大学が向き合い、一緒に解決方法を検討します。



この事業が
オススメ！

地域の課題や活動を考える

課題



棚田に生息する生物の保全や命の尊さを子ども達に伝承 (詳細 P3)



在来雑穀の保全・継承、商品化



ビワ園の環境美化や管理 イベントの労働不足

活動



棚田保全活動をしながら、子どもたちにも伝わる絵本を制作



地域住民と在来雑穀を栽培し、和菓子としてブランド化



草刈やビワの剪定補助、イベント開催に合わせた人的支援

取り組む



「一社一村しずおか運動」では、地域が抱える課題や目標に企業・大学が共に向き合い、考えながら協働します。このため、特定の農山村地域と協定を締結し、3年以上の計画の基で活動します。

まずは、地域の活動に参加し、地域資源（宝）や住民の想いに触れ、「これなら継続できる・この地域と活動していきたい」という方法を見つけてから取り組むのがオススメです。

県・市も協定締結に向けた地元や企業・大学との調整に入ります。

御相談は「むらづくりワンストップ窓口」までお寄せください！（P7）

★協働活動に取り組む人たちの声

農山村

- ・ 企業、大学の人たちとの交流で地域が明るくなった！
- ・ 地域の農産物を活かした商品が開発できて嬉しい！
- ・ 企業、大学のアイデアで新しい地域資源の発掘ができた！

企業・大学

- ・ 農山村との交流が企業の人材育成や大学の環境学習に繋がった！
- ・ 地域の農産物を活用した地産地消商品で企業イメージがアップした！
- ・ 行政とも連携することで小さなアイデアでも農山村と協働できることがわかった！

予告【里風通信 VOL.11号】

次号の特集は、「むらづくりワンストップ窓口の活用方法！」についてです。協働を初めて取り組む企業、大学の方からの相談も県の地域づくりアドバイザーがお伺いし、一緒に持続可能な農山村づくりについて考えます。お楽しみに！

県内の農山村では、企業や大学が持つ技術やノウハウ、自由な発想を活かして、農山村が元気になる協働活動が始まっています。内容を見ると、大きくわけて「提案型」と「応援型」の2つのタイプがあります。それぞれのタイプの違いを事業と事例から詳しく紹介します。

★協働を支援する2つの事業と事例紹介

提案型の協働

企業・大学のもつ資源やノウハウ、自由な発想と地域資源を結び、地域を問わず広く協働します。

しずおか 農山村サポーター

むらサポ

まずはここから！
スタート

企業・大学の技術
アイデアが活躍する
協働を検討

アイデア



ドローン空撮・映像制作技術 (詳細 P1)



農地保全に必要な人的支援や活動地の農産物を活用した地域のPR



遊休農地を活用した農業体験

実践



美しい農山村風景を空撮し、YouTubeで放送する等の広報を支援



摘み取った茶葉を焙煎。地域の魅力やCSR活動を伝える販促品として配布



生産された農産物を商品化し、イベント等で販売

相談・調整する



むらづくりワンストップ窓口(詳細はP7)では、県の地域づくりアドバイザーが随時相談を受け付けています。農山村地域の方が出席する研修会や交流会もありますので、地域との出会いの場として参加するのがオススメです！

★こんな相談もできます！

- ・ 農山村地域が企業や大学に求めていることを知りたい
- ・ 企業や大学と連携したい農山村地域を紹介してほしい
- ・ 農山村との協働活動を企業にもメリットのあるCSVに転換したい

「このアイデアで農山村と協働することはできますか？」等の問合せが増加中！多彩なアイデアが豊富な農山村の地域資源と結合し、協働へと発展した事例も多いです。

まずは「むらづくりワンストップ窓口」までお気軽にお問い合わせください！
(※窓口の詳細はP7でご覧ください)